

結核・呼吸器感染症予防週間

(9月24日～30日)

結核の疫学動向

結核は、今でも年間10,000人以上の新しい患者が発生し、1,400人以上が命を落としている日本の主要な感染症です。
新登録結核患者は、高齢者に多く、およそ7割が60歳以上となっています。
また、若年の外国生まれの患者の割合が増加しており、20-29歳の新登録結核患者の9割を占めています。

厚生労働省Hp 結核より
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou03/index.html

【厚生労働省2025年度ポスター】

特徴	結核菌 (<i>Mycobacterium tuberculosis</i>) は長さ2～10ミクロン、幅0.3～0.6ミクロンの細長の桿菌で非常に小さいため、空気中を浮遊（約1時間）する。偏性好気性菌で至適温度は37℃なので、人体で増殖しやすい。8割は肺結核ですが、肺外結核もあります。
潜伏期間	感染後数カ月～数十年。60%の人が1年以内、多くは2年以内に発病する 今、戦前戦後の結核が蔓延した時代を過ごした高齢者が、免疫低下し発病するケースでは、潜伏期間が70年、80年などもある。
症状	初期症状はカゼと類似。せき、痰（たん）、発熱（微熱）などの症状が長く続く（2週間以上）。体重減少、食欲低下、寝汗、全身倦怠感などの症状もある。
対策	空気感染対策 N95マスク（レスピレーター）の使用 ＊診断されてからだけでなく、疑いがある・抗酸菌の喀痰検査をするときは対策を開始しましょう。 ＊早期診断のために、長く続く咳やあれ？と思う症状があれば、早めの受診を心掛けましょう。



最新トピックス

平時からできる事



- 咳エチケットの啓蒙
- 早期発見・早期診断
- 海外渡航歴の確認
- N95マスクの着脱技術支援

スクリーニング対象国から、日本に入国・中長期間在留しようとする者に対して、入国前に指定健診医療機関において胸部レントゲン検査等を受け、結核を発病していないことを証明する資料の提出を求める制度が始まっています。準備の整った3か国（フィリピン、ネパール、ベトナム）から開始

